

「鳥獣被害対策」の取り組みについて

1 平成30年度の取り組み状況

(1) 被害集落の早期解消に向けた防除対策の強化

【成果目標】 合計1,000集落での被害ゼロによる農林業被害の軽減

- ・野生鳥獣に強い高知県づくり第2期の推進
 - H30年度から3年間で500集落を支援（目標：合計1,000集落の被害ゼロ）
 - H30年度支援集落：170集落（12月末現在合意形成集落：141集落（累計641集落））
- ・第1期等で合意した集落へのフォローアップの実施
 - H30年度フォローアップ対象集落：102集落（12月末現在うち68集落で支援活動中）
- ・シカ用防護柵やサル用防護柵設置等への支援
 - 鳥獣被害防止総合対策交付金（国）の活用：10市町村（195,449千円）
 - 中山間地域所得向上支援事業（国）の活用：2市村（74,000千円）
 - 野生鳥獣に強い県づくり事業費補助金（県）の活用：15市町村（27,201千円）

(2) シカ捕獲目標3万頭の早期達成に向けたわな猟の強化

【成果目標】 シカ捕獲3万頭の捕獲体制の確立

- ・狩猟者の確保と捕獲技術の向上による捕獲頭数の底上げ
 - 狩猟免許試験合格者数：235名（1/15現在）今年度14回実施（臨時試験2回追加）
 - 出前講座による若い狩猟者への働きかけ：高知大学10/24、幡多農業11/2、高知農業11/6、四万十高校1/17、窪川高校1/17、農業大学校1/24〔予定〕、高知農業2/9〔予定〕
 - 狩猟免許大量更新への対応：更新2,891件（対象件数3,460件）更新率84%
 - 狩猟フォーラムの開催：10/8香美市（来場者数164名）、11/11四万十市（来場者数86名）
- ・狩猟者の技術に応じた使い勝手の良いくくりわなの購入を支援しシカの捕獲を推進
 - シカ捕獲推進事業費補助金：くくりわな3,744基予定（18市町村）
- ・ICTを活用した大型囲いわなによる新たなシカ捕獲の実証実験
 - 指定管理鳥獣捕獲等事業：ICT付き大型囲いわなでの捕獲を実施中（9/27設置、10/10捕獲開始～2月末〔予定〕）
- ・狩猟期間の延長：11月15日～3月15日 → 11月15日～3月31日（8/3公告）
- ・捕獲した鳥獣の有効活用推進のための官民協働による研究会活動やジビエフェアの開催
 - よさこいジビエ研究会：7/26、3月〔予定〕、よさこいジビエ調理教室：10/20、県庁食堂秋のジビエウィーク：11/15～21、よさこいジビエフェア1/15～3/14
- ・安定供給の体制づくりを目指した処理施設への搬入や施設での産業廃棄物の処理を支援
 - ジビエ利用拡大狩猟者講習会：10/14、10/15、11/7（合計参加者数76名）
 - ジビエ利用拡大狩猟捕獲支援：10/30（2施設と契約）、11/15～2/28搬入受入れ
- ・集落活動センターにおけるジビエ活用事業への支援
 - ゆすはら西処理施設での処理頭数（シカ・イノシシ）：323頭（12月末現在）

2 課題

(1) 被害集落の早期解消に向けた防除対策の強化

- ・ 集落ぐるみで取り組む対策への住民意識の醸成
- ・ 合意形成の加速化のための総合的なサル対策の推進

(2) シカ捕獲目標 3 万頭の早期達成に向けた捕獲対策の強化

- ・ 狩猟者の高齢化
- ・ 若者や女性の狩猟に対する意識の醸成
- ・ 密度が薄く広範囲に生息するシカの効果的な捕獲方法の検討
- ・ 捕獲した鳥獣の有効活用の推進

3 平成 31 年度の取り組み方針・進め方

(1) 被害集落の早期解消に向けた防除対策の強化

【成果目標】 合計 1,000 集落での被害ゼロによる農林業被害の軽減

- ・ 野生鳥獣に強い高知県づくり第 2 期の着実な推進
- ・ 被害の再発を防ぐためのフォローアップの継続
- ・ [新規] 防除と捕獲に追い払いや環境整備を加えた総合的なサル被害対策の実施

(2) シカ捕獲目標 3 万頭の早期達成に向けた捕獲対策の強化

【成果目標】 シカ捕獲 3 万頭の捕獲体制の確立

- ・ [拡充] 狩猟免許試験の申請に必要な診断書料への支援をメニュー化し狩猟者確保対策を実施
- ・ [拡充] くくりわなの購入への支援や捕獲報償金の支給による捕獲の推進
- ・ [新規] ICT を活用したくくりわなによる新たな捕獲技術のモニター実証
- ・ 捕獲した鳥獣の有効活用を図るための消費拡大や処理施設に搬入した場合の報償金の支給などによる安定供給への支援

